

# 突然ですが、どうしますか？



日常の中で、よくこんな場面、ありますよね～

今どきの子どもは、こんな時、どうする？

- ①自分で拭く。②先生に言う。③何もしない。



答えは「フリーズしたまま」です。

どうしてフリーズするのかな？

- A. どうすればいいのか、分からないのかな～？  
B. それとも、分かっているもしないのかな～？

この後、あなたなら  
どうしますか？



「ナニやってんのよ！モーモー」と牛になっちゃうエンチャヨはさておき、標準的な保育者の対応って、こんな感じかなあ～

T「あっ、こぼしちゃったか～！？」  
C「・・・」(フリーズしたまま)  
T「ぞうきんで拭くんだよね」  
と言いながら、先生がぞうきんを持ってきて拭いてあげました。

めでたし、めでたし！  
よかったね～  
イイ先生だね～



## でも、あすなろの先生は



ぶかない！

そのかわり…

『あ…』と声を漏らして

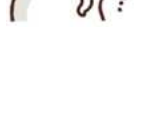
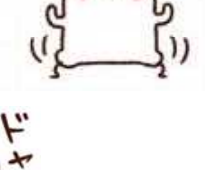
その場で立ちすみます。



子ども先生も、フリーズしたまま

1ぷん 2ぷん 3ぷん…すると！

「とってくる…！」  
自分でぞうきんを持ってきて、  
なんと！自分で拭き始めます。



3才児れんげちゃんのクラスでやってみても、同じ結果でした。つまり、生活の中でちゃんと知恵として身につけていたり、考えることができるのですがそれを子どもが出していく場面を、大人がつくりだしていないのです。



## フリーズした幼児を見て…

どうすればいいか  
分からないんだあ～  
教えてあげよう♪



↑ どっち？ ↓



もしかすると、  
分かっているかも  
しれないぞ！

### “教える教育”から“気づく教育”へ

あすなろは、この子はもしかすると分かっているかもしれない…と、とらえます。「教えてあげる」のではなく、まずは「出たくなる」状況をつくります。

また、解決するための知恵や体験がない場合には「どうすればいいかなあ？」と、一人言のように、自問するようにそのセリフを、先生がつぶやきます。

これを＜子どもに問いかける＞ように言うと、子どもは『(大人の)正解があるらしい』と受けとめ、先生がその答えを言ってくれるのを待つてしまうのです。そして、自分で感じ考えることをやめてしまいます。

「どうすればいいかなあ？」という先生のつぶやきは、子ども自身の自問になって改めて状況を感じ“気づく”ことが出てきます。すると、「あのねボクは…」と自分で考えたことを口にしてくれたり、行動を起こしたりします。

でも…子どもを気づきに  
導くひと言って  
難しいのだ～



そのための勉強してま～す！

①発達理論と愛着形成論を学ぶ  
オギャーと生まれ、一生を終えるまでの発達理論と井上愛着形成理論による愛着形成について学ぶ。

②ケース研究を行う  
個々の場面での幼児の行動の解釈、心理を読み取りを行動観察とともに行う。

③行動学としての演劇論の勉強  
スタニスラフスキーシステムを基盤とした劇あそびの実践と人間行動の考察。

④大学教授とコラボ

- ・聖心女子大学・河邊貴子教授  
保育論／子ども論／エピソード記録の取り方
- ・慶應義塾大学・眞壁宏幹教授  
幼児のアート活動の本質／幼児のシンボル形成論